



YOU ARE THE KEY

あなたが鍵です



会長 佐藤順治 幹事 秋野 忠 クラブ委員 吉野 勲 職業委員 板垣広志 社会委員 小池繁治 国際委員 高橋良士 青少年委員 丹下誠四良

出席報告：会員 79 (73)名 出席 60名 出席率 82.19% 前回出席率 76.71% 修正出席 66名 確定出席率 90.41%

ゲストスピーチ

G.S.E 派遣を前にして

木村 日出夫氏



私が只今紹介ありました木村日出夫です。

只今もお話しがありましたように、先日福島にて選考会があり、作文、英語、面接の試験がありました。私の感じたことは、面接が重点的であり、且つG.S.

Eにてアメリカに行った場合、自分として何をすべきかという事を聞かれました。

自分は米作りをやっていますので、場所としてはカリフォルニアです。しかし最近、減反が大きな面積となっており、その利用について迷っておられる人も大部いるようです。

私も5反歩程大豆を作っています。大豆は米と比べて収入はそう多くは見込めない。しかし、ハウスで花や、養豚をして収益をあげている経営の上手な人もおります。

私としては、土を利用した附加価値の高いものを見つめていきたいと考えています。3年程前の事ですが、とうもろこしが儲かるということで皆が飛びついて、一気に下落したことがあります。やはり皆と違ったもの、違った時期等を考えねばならない。

この度の目的として、そうした作物を探して来た

いと思っている。大体アメリカから5年位遅れて作物種が入ってきているようだ。渡米前に下調べをしていくつもりであるが、色々違う場合にあらうと思うが、その時はその時のように対応して行きたい。又、私の趣味として英会話がありますので、この際一層みがきをかけたいと思っております。

いづれにしろ皆様の力添えて渡米するわけですので、御期待に添うようがんばりたいと思います。

帰国挨拶

デビット・A・ハイライン氏



鶴岡に2年間住んでいました。あなたがたの顔全部知っています。名前は全部わかりません。ほんとうにアットホームの感じ。よく知っている町になりました。これからはアメリカを知らなければなりません。

鶴岡にくる前よくロータリーの仕事をしてきましたので、心から協力に感謝しています。

アメリカに帰ってからも又、日本との仕事が続きます。

簡単ですけども、どうもありがとうございました。

会長報告

佐藤順治君

1. G.S.E地区計画について

あなたが鍵です — 会員増強にご協力を!

庄内空港の建設を推進しましょう

かねて当クラブでは木村日出夫君を申請中でありましたが、地区内応募者が12名（山形5名、福島7名）おりました。地区では団員5名、補欠2名の定員になっておりますので、去る9月14日、福島市民報ロイヤルホールに於てペーパーテスト、面接等に依る選考会議の結果、日出夫君がみごと合格されました。先日、地区よりその旨の連絡がありましたので、本日その合格通知書を本人に手渡します。

後刻、ご本人よりご挨拶をお願い致します。

2. 英語弁論大会について

9月19日、県英語教育研修会田川支部第37回中学校・高等学校英語弁論大会が第3学区コミュニティセンターで開催致しました。

都合の為、私にかわり高橋先生に出席して頂きました。後程ご報告をお願いしたいと思います。

3. 釣大会について

9月21日、親睦委員会の計画にもとずきまして象潟の向う平沢海岸で釣大会を開催致しました。私も参加しましたが、当日は幸い天候に恵まれ、楽しい一日を過ごさせて頂きました。

親睦委員会及び山下さん、嶺岸さんの奥さん達のご奉仕に対し感謝申し上げます。

当日の収穫は色々でありましたが、賞品なども沢山ありましたので、スマイルの関係もあり、後程委員長よりご報告をお願いします。

4. I.G.Fについて

9月22日、酒田勤労者福祉センターにおきまして、庄内分区I.G.Fを開催致しました。当日は当クラブより13名出席しました。

第一分科会のテーマ A

国際化時代を迎え、ロータリアンは地域社会で何をすればよいか。

第二分科会のテーマ B

わが分区内各クラブの問題点について

(1) 「会員増強を成功させるには」

第三分科会のテーマ C

わが分区内各クラブの問題点について

(2) 「魅力ある例会にするには」

という内容にもとずき、当クラブ会員も3分科会に分かれ夫々勉強致しましたので、その成果を発表して頂きたいと思います。

5. 次期定例理事会について

10月1日定例理事会を開催致しますので、理事の皆さんは11時30分迄出席して下さい。場所は後日お知らせ致します。

幹事報告

秋野 忠君

○例会時間の変更 酒田東R.C

日時 9月26日 午後5時30分

場所 酒田産業会館

○認証状伝達式のご案内 第272地区大分R.C

日時 11月30日(土)

場所 大分市府内町 トキハ会館

○柏南R.C会報到着

○各委員会の皆様にはお願いですが、例会時に委員会報告をして頂いてますが、その報告が少ないようですので、是非委員会を開いて頂いて、近況なり例会の持ち方の工夫などをお聞かせ願えればありがたいと思います。

I.G.F 報告

第1分科会

「国際化時代を迎え、ロータリアンは地域社会で何をすればよいか」

今年は国際青年年にあたり、各地域でどのように活動されているか、各R.C代表3分間スピーチの発言を与えられ、午前の部では主に青少年活動が主であり、その中で2つ、理解しがたいリーダーの発言があり、ムッときました。1つは県の洋上大学の研修にフィリピンや中国でなく、英語を話することのできる国を選ぶべきだ。2つは鶴岡南高で交換学生の受け入れの件で、もっと別の学校を選ぶべきだ? の発言があり、自分としてはむしろ英語の出来る進学校でお互いの理解度が深く、早く理解出来るものと思う。文化、歴史等についても。

又、午後の部では、主に国際感覚を身につけるには…から始まり、あるR.Cの方はまず身の廻りから自然に感覚を身につけ、世界で通用する、いわゆる公衆道徳を身につけようということ等、又、他のR.Cからいろいろ外国に行った時などの失敗談等、いろいろ経験なされた人々の話を聞きながら感覚を身につけるのが一番早い近道ということでした。

まとめますと、一つ、姉妹クラブを作ること。二つ、共通していえる事は今すぐ感覚を身につけると言われてすぐ出来るものではない。これには子ども達に託すしかない。三つ、財団に寄附するばかりでなく、それを活用していくべきだ。

最後に、フォーラムの姿をもう少し変えるべきではないでしょうか？

第2分科会

「会員増強を成功させるには」

- 職業分類委員会が作成した充填・未充填職業分類表をみて、未充填の職業分類に対しターゲットをしばって会員増強をしたらいいのではないかという意見。
- 同業者を中心として会員増強をした方が推薦しやすいという意見が数名の方から出された。
- ロータリークラブの魅力を対外的にP.Rして会員増強していった方がいいという意見などが出されたが、時間の関係上から結論らしきものは出ないで終わった。

第3分科会

「魅力ある例会にするには」

アドバイザーに村上淑郎さん(遊佐R.C)、モデレーターに加藤有倫さん(鶴岡西R.C)の進行で分科会は始まりました。総勢76名の参加者。うち鶴岡R.Cは3名の参加、ちょっと淋しい感じが致しました。

午前中は、自分の体験談に基づいて意見発表。午後からは関連についての意見発表とに分れ、べつに結論にこだわらずのびのびと発言していたようです。

以下、簡条書で報告いたします。

- 会員の呼称について、いままで先生、さん、君とかまちまちに呼んでいたのが、〇〇会員と統一して呼ぶようにしております。
- ゲストの話す時間をいくらかでも長くする為と、食事に時間のかかる会員の為に、12時頃から食事を用意し、点鐘の前まで食事をすませてもらうようにしている。
- 例会のスケジュールを最初に一年分を計画して発表している。どうしてもプログラム委員長に責任が押しつけられ、会員全体のプログラムになっていないので、クラブ協議会を2ヶ月に1度行い、会員の参加を求めて意見を取り入れるようにしている。
- 会員スピーチを会員に年2回、結婚記念日と誕生日にそれぞれ行ってもらっています。又、女性ゲストも大変好評でした。
- 例会で会員の座る所を固定し、班編成のような形で一年間通して食事をしてもらっております。派閥みたいであまり良い事ではないと指摘されましたが、仲間づくりの形で、悪い面よりもいい面の方が数多くでてきております。
- 例会を楽しくするためには、他動的にはクラブが準備するプログラムにあるでしょうし、自動的に自分で例会にどのような姿勢で望むかにあると思います。
- 自己研鑽の自覚をもって例会に出席してもらっております。その為には新人教育が大切であると考え、3～4時間のトレーニングを年4～5回行っております。(新人から発言があり、大変勉強になっておるとの事でした。)
- 例会を放談会、クラブ・フォーラム的なものにして、お酒を飲みながら色々な話し合いをしております。マンネリを打破できてよかったと思っております。
- 月に1回だけでも食事を良くした例会が必要ではないのか。食事がまずくてやめた会員もおります。
- 新入会員のトレーニングの一環として、月に2回は新入会員のスピーチを取り入れてゆきたいと考

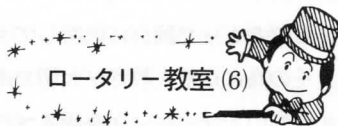
えております。

スマイル

- 佐藤 昇君 親睦委員会の釣大会が無事終了して。
- 鈴木正昭君 釣大会に優勝して。
- 黒谷正夫君 釣大会に準優勝して。
- 佐藤元伸君 優勝者にエサを分けて、賞品を分けてもらって。
- 白坂 久君 信金ゴルフコンペに優勝して。
- 佐藤陸男君 荘内日報40周年記念無事終了して。
- 三井 徹君 ハイライン君2年の仕事を終了して1日鶴岡を離れるが、皆さんの後援に感謝し、同君のこれからの健康と活躍を期待して。
- 笹原桂一君 長男が英語弁論大会二位に入賞して。

ビジター

- 鶴岡西R.C 佐藤 拓君、菅原年雄君
長南朋養君



(第1323回例会会報より続く)

ハーバード・A.ピグマン事務総長は、国際ロータリー年次報告で、次のように述べました。米国ノースカロライナ州ウォータリー・ラゴフ・ロータリークラブが本日加盟して、新クラブの総数は741となり、1983～84年度の新記録714を上回りました。その結果、159ヶ国に21,400を越すクラブがあり、会員数は980,000を越えました。ロータリーは、過去10年間に会員数で23.6パーセント、クラブ数で29.50パーセント増えました。これは、「ボランテ

ィア団体の世界では羨望の的となるような記録」である、と語りました。ピグマン事務総長は、「国際協議会は、前年より3カ月早く2月に開かれ、ガバナーが指導力育成のための会合の準備期間を十分持てるようにしました」と報告しました。さらに1986年2月に米国イリノイ州シカゴで開かれる規定審議会に出席者の注意を促しました。ロータリーの奉仕すべてを金額に換算すると米貨3億ドルを上回ると述べました。この中には、38カ国で61件のプロジェクトが実施されている保健、飢餓追放および人間性尊重(3-H)プログラムも含まれます。

カルロス会長が、ロータリー運動の貢献をたたえた、ミゲル・デラマト・ウルタド・メキシコ大統領の手紙を読み上げました。新しいビデオ「ポリオ撲滅2005年—世界のすべての子供に免疫を与えるために」が壇上の三つの大スクリーンに上映されました。次いで、カルロス会長は、経口ポリオ・ワクチンの開発者、アルバート・セイビン博士にロータリー国際理解賞を贈りました。

力強く、ウィットに富む話し手であるセイビン博士はポリオ撲滅2005年委員会の顧問です。そして、開発途上諸国のすべての人に免疫を与えることを強調して、聴衆の心をとらえました。セイビン博士は警告しました。「もし何もしなかったら、20年間にポリオのため、800万を越す子供が障害者となり、おそらく80万人以上の子供が死亡するであります。」

5,306人が国際親善昼食会に出席し、1,456人がホスト・クラブ主催のきらめくようなファッションショーを鑑賞しました。カルロス会長は、ロー・バートル・ホールで開かれた創立80周年記念昼食会でスピーチをしました。出席者は3,000人です。この三つの催しのチケットはすべて売り切れました。

※ 次回へ続く